日本AED財団
The AED Foundation of Japan

News Letter Vol.3
(2018年3月7日)

Contents

1) 理事長から 東京マラソン：心停止からの救命率100%を更新
2) AED推進フォーラム2017報告
3) 名誉総裁 高円宮妃殿下のお言葉
4) AED功労賞報告
5) ご寄付のお願い

東京マラソン：心停止からの救命率100%を更新

日本AED財団
理事長　三田村 秀雄

2018年2月に開催された東京マラソンでまた新たな記録が更新されました。記録と言っても完走タイムのことではありません。救命率の記録です。

東京マラソンには毎年およそ3万6千人の市民ランナーが参加しますが、必ずといってよいほど、誰かが全長42.195キロのコース上で心停止に陥っています。今回は何と3人も心停止で倒れたのですが、幸い2人は近くのAEDで救命され、もう1人は心肺蘇生を行っている間に息を吹き返しました。これまで12回の大会で合計すると11人のランナーが心停止で倒れていますが、なんとその11人全員が無事に救命されているのです。救命率100%を更新できたのは、スポーツ中の心停止を想定内のものとして捉え、周到な準備をし、十分な訓練を行ってきた結果にほかなりません。実は東京マラソンでこのような救命体制を構築し、改善し、主導してきたのが我が日本AED財団の田中理事、真鍋実行委員、喜熨斗実行委員といったメンバーでした。彼らの努力を称えると共に、2020年のオリンピック・パラリンピックを見据え財団として益々身を引き締めていかねば、と思いを強くした次第です。

昨年4月に高円宮妃殿下を財団名誉総裁として謹んでお迎えした日本AED財団では、「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」を新たなスローガンとして、一人でも多くの貴重な命を救うためにさらに前進を図るつもりです。引き続き皆様方のご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。

一般財団法人 日本AED財団
〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階
TEL 03-3253-2111　FAX 03-3253-2119

AED推進フォーラム2017

今回が2度目となる「減らせ突然死」AED推進フォーラムが2017年11月16日、高円宮妃殿下のご臨席の下、およそ200名の参加者を得て都内で開催された。

冒頭の妃殿下の感動的なスピーチ（別掲）に続いて、三田村理事長による基調講演、さらにSchool部門を代表して桐淵博理事による「子供を“誰でも救命士”に」、Sports部門を代表して田中秀治理事による「東京マラソン　救命率8/8の秘策」、Social部門を代表して石見拓専務理事による「AEDはどこにある？」の講演と討論が繰り広げられた。

質疑では会場から有森裕子AED大使が心停止現場に遭遇した際の自身の貴重な経験を紹介された。次に、プロレスラーの蝶野正洋AED大使とフリーアナウンサーの堀潤氏がAEDでの救命経験を持つ福田瑞穂さんを囲んで「人が倒れた！迷いから決断へ」と題して楽しく実り多いトークを交わした。最後のAED功労賞授賞式では計17件の応募の中から厳選された3組が紹介され（別掲）、画期的な取り組みに皆が心を打たれた。

会場風景

高円宮妃殿下ご挨拶

一般財団法人 日本AED財団
〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階
TEL 03-3253-2111　FAX 03-3253-2119

名誉総裁　高円宮妃殿下のお言葉

～2017年11月16日　AED推進フォーラム～

みなさまこんにちは。日本AED財団のフォーラムに参加させていただきますことをとてもありがたく思っております。

宮様が亡くなられたのが2002年11月21日ですので、ちょうど15年前になります。日本においてのＡＥＤの普及は、2004年から活発になりました。残念ながら2002年には一般的ではありませんでしたが、宮様が発信されたメッセージが何らかの形でAEDの普及につながったのであれば、お喜びのことと思います。

宮様はスカッシュの練習中に倒れられたのですが、スポーツマンとして常識的な準備や休憩、水分をとっていらっしゃいました。ストレッチングをなさり、ゆっくりスカッシュを始められ、カナダ大使との試合を終えられた後、水分補給をしながらご休憩になり、その後、コーチの指導を受けるべくコートに出られ、３，４ストローク目でお倒れになったそうです。

2002年以来、素人なりに心臓発作についていろいろ考えてまいりました。このスカッシュの時、人間の側から考えれば必要なステップをすべて踏んでいらっしゃるのですが、心臓の側から考えた場合には違います。心臓からすれば、すごく激しい運動で負荷がかかり、休憩でやっと心拍数も普通に戻ってやれやれと思っているところ、突然、またの激しい運動。つまり、最初はウォーミングアップをしますが、休憩後には基本的にいたしません。体が温まっているように感じても、心臓や腱はもとに戻っているので、ゲームを再開する時には心臓や腱の観点から考えて行動することが必要だと気づきました。

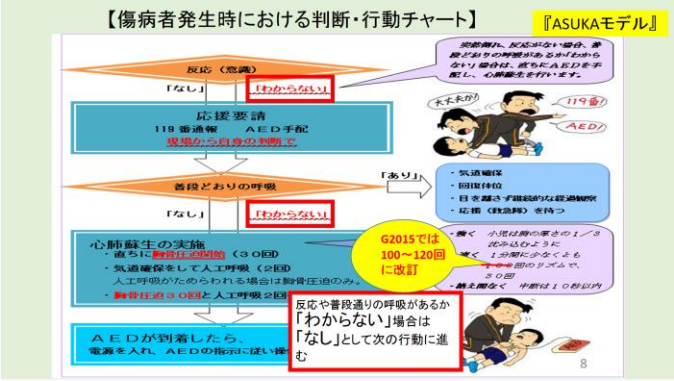
また、以前に私が「AEDを使うのが怖い」と話した時に受けた説明をシェアさせていただきたいと思います。AEDを必要としている人はすでに心臓は止まっている。したがって、私がAEDを使ったからより一層悪くなることはなくて、むしろ唯一の可能性の鍵を私が握っている。したがってAEDを使ってください。AEDが有効な手段ではない場合には機械が操作しませんと、すごくわかりやすく説明していただきました。

愛地球博の時もいろいろな方の命が救われました。今まで心臓が止まってしまったらもうどうにもならないというあきらめが、AEDによってもう一度心臓を動かすという大きな希望に変わりました。私たちに与えられたAEDという宝物を多くの人が使えるようになり、一人でも多くの方の一生に一度しかないその命を救うことができれば、素晴らしいことです。

AEDについて、また心臓についても自分なりに気にかけてまいりましたが、昨年、名誉総裁のお話がございました。私どもは、新しく立ち上がった組織の名誉総裁に就任することは非常に珍しいのですが、喜んでお受けいたしました。

秩父宮妃殿下は殿下が結核を患っていらっしゃったことから結核予防会と関わっておられ、高松宮妃殿下はお母さまを癌で亡くされたので、癌についての会と関わってこられました。同じように、私は心臓又はAEDが私に与えられた一つの使命というふうにも考えております。普及に向かってみなさまとともに、力を合わせてまいりたいと存じます。
今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

一般財団法人 日本AED財団
〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階
TEL 03-3253-2111　FAX 03-3253-2119



スライド School部会より
日本AED財団　理事
桐淵　博

スライド Sports部会より
日本AED財団　理事
田中　秀治

スライド Social Network部会より
日本AED財団　専務理事
石見　拓

ディスカッション風景

ディスカッション風景（左からAED大使の有森裕子様、司会でフリーアナウンサーの堀潤様、福田瑞穂様、プロレスラーでAED大使の蝶野正洋様）

一般財団法人 日本AED財団
〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階
TEL 03-3253-2111　FAX 03-3253-2119

AED功労賞2017

日本AED財団では2017年度よりAED功労賞を創設しました。全国から17件の応募があり、厳正な選考の結果、最優秀賞1件、優秀賞2件を選出しました。

最優秀賞

岡田 紗季 様
智辯学園和歌山高等学校 3年

やってくるAED　【AEDi】
AEDを早く現場へ届ける為、タブレット端末を利用した【AED i】という仕組みを開発。119番通報するだけでAEDが現場に届く仕組み。
すでに消防署・企業・市役所・大学を巻き込んでの実証実験を行い、成果を出した。

優秀賞

前田 哲也 様
銭湯 大星湯　オーナー（災害時支援ボランティア）

銭湯にAED
経営している銭湯(東京都新宿区の大星湯）で、平成10年からこれまでに87回の講習会を実施、延べ1837名にAEDの使い方を指導。平成17年には銭湯でAEDの初導入も実現。これまで二人に緊急使用。　自店だけでなく業界・地域も巻き込んでの災害マニュアルの作成にも取り組んでいる。

優秀賞

Wild Idea（花田 彩愛 様、高岡 奈都海 様、小池 佳菜子 様）
京都大学医学部人間健康科学科看護学専攻 4回生

救命の連鎖（新運動競技）
小学生を対象に、楽しんで救命法が学べる【救命の連鎖】という競技を開発。啓発活動をおこなっている。

一般財団法人 日本AED財団
〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階
TEL 03-3253-2111　FAX 03-3253-2119

【寄稿】AED功労賞2017最優秀賞 岡田 紗季様より

【受賞の感想】
今回、AED功労賞最優秀賞に選んでいただけて驚き嬉しさでいっぱいです。たくさんの大人の方に支えられて活動をすることができました。これからも、AEDを一般市民の方々に活用していただけるよう頑張っていきたいです。

【動機や背景】
祖父が心停止で倒れ、以来心臓突然死に興味を持ち、解決に向け活動をしています。この心臓突然死にはAED(自動体外式除細動器)が効果的であり、
我が国は人口比に対するAED設置台数が64万台と世界１の設置台数を誇っています。さらに、AEDは適切に使用されると生存率は6倍、社会復帰率は10倍にものぼります。しかし、AED使用率は3.7%とほとんど使われていません。そこで、私はAEDが有効活用されていない原因は(消防署へのヒアリング調査の結果)、「AEDの場所がわからないことによる、AED到着時間が遅いこと」であると考察しました。

【プロジェクト内容】
「AEDi」というAEDにタブレットを付属した新しいAEDを発案しました。これは「AEDを素早く救助現場にとどけるシステム」です。コンセプトは、「やってくるAED」です。具体的には、通報を受けた消防署が現場近くにあるタブレット付きの AEDBOX のアラートを鳴らすことで周辺の人がタブレットの地図誘導を頼りに現場まで運搬するシステムです。

【大変だったこと】
大変だったことは1人でプロジェクトを進めてきたことです。
これからは仲間と共にプロジェクトに取り組みたいと思ってます。

【今後について】
今後はまず、AEDiのシステムを完成させて、実際にAEDi効果検証を行いたいと思います。そして、AEDiを新たな商品として全国に広めていく予定です。

AEDi 広報資料

記念撮影（岡田様と古川会長 ）

一般財団法人 日本AED財団
〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階
TEL 03-3253-2111　FAX 03-3253-2119

ご寄付のお願い

いつ、どこで、誰に起こるかわからない突然死を救うには、全国レベルでの取り組みが求められます。ところが残念なことに救急車が現場に到着するには平均8.6分かかると言われます。心停止の場合、それでは九死に一生を得ることも困難です。手遅れを補う唯一の手段が現場の一般市民による応急手当なのです。たまたま居合わせた素人の市民が勇気を振り絞って手を差し出せるかどうか、そしてすぐにAEDを使えるかどうかが生死を分けます。

そのような市民への協力をいったい誰が促し、その実現のための環境を誰が整えていけばいいのでしょう。待っているだけでは何も変わりません。それを積極的に変えていくという公的な使命を担うのが日本AED財団であると考えています。

世の中の仕組みを変えていくためには、各方面への働きかけだけでなく、多くの方々に命の大切さを説き、救命が可能なことを伝え、それを実践できるように教育、講習、啓発などを推進していかなければなりません。

日本AED財団は平成28年7月に発足したばかりで、その目的をかなえるだけの資金がまだ足りません。この活動は皆様のご理解とご支援なくして遂行できません。是非とも私どもの活動にご賛同いただき、ご支援賜りますようお願いいたします。貴重な命を救うために。

ご寄付は随時お受けしており、金額はいくらでも歓迎します。なお、継続してご支援いただける場合には、支援会員の制度もございますので、お問い合わせください。

一般財団法人　日本AED財団　御中　　（申込日）平成____年____月____日

貴財団の趣旨に賛同し、下記の内容により寄付いたします。

ご芳名

ご住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〒

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(電話)　　（ＦＡＸ）　　(Email)

寄付金額＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

金＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿円

振込人名(カタカナ)

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

振込予定日　　平成 ＿＿＿年 ＿＿＿月 ＿＿＿日頃

【お振込先】金融機関名：みずほ銀行 東京都庁出張所(777)

口座番号　：普通預金1065036　ザイ）ニホンＡＥＤザイダン

振込先名義：一般財団法人 日本AED財団

※本用紙をご提出いただく際は以下のFAX番号までのご送付をお願い申し上げます。

一般財団法人 日本AED財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階

TEL 03-3253-2111　FAX 03-3253-2119

E-mail　info@aed-zaidan.jp

HP　http://aed-zaidan.jp/

日本AED財団